

Shou 尚

発行者: 寶積克彦, 埼玉県狭山市水野594番地, 企画編集: 広報紙編集室, 編集長: 関口 歩
ホームページアドレス: www.syojukai.or.jp メールアドレス: syojukai@mirror.ocn.ne.jp

平成26年度(2014)事業計画 副理事長 寶積英彦

今年も早いもので、気がつくと既に2カ月が過ぎました。たった2カ月のようですが、既にいろいろな事が始まり、進行しています。

- ・1月…大生病院にて、日本医療機能評価機構の第三者による病院機能評価(3rdG:Ver1.0)を慢性期・リハビリテーション・精神科病院の3分野を同時に、職員一丸となり受審。
在宅サポート 21 狭山訪問看護ステーションでは、定期巡回・随時対応訪問介護看護事業を開始。この事業は、県西では初の取り組みで、地域のモデルケースになって行くと思っています。
- ・2月…大生病院で最後の介護療養型病棟(50床)を医療病棟へ転換。病院では質の高い慢性期医療の提供を行います。介護を主体とするのであれば、介護施設もしくは在宅療養が適切です。地域包括ケアへのひとつの推進であり、今後の方向性であると確信しています。
数十年ぶりの豪雪。法人職員やその家族までが、それぞれの立場で、遅滞なく業務が遂行できるよう、協力してくれました。
- ・3月…大生病院において、入院患者様の慢性維持透析を開始しました。
介護老人保健施設 愛では、第1回目となる施設介護に主点をあいた学術集会を開催します。

新年度で、私自身も医療法人尚寿会副理事長に就任して4年目を迎えます。地に足を付け、大きな飛躍の準備をするために、下記に本年度の事業計画を提示します。

① 危機管理(災害対策)への基盤再編成

3年前となる東日本大震災後に、施設耐震構造の再構築・備蓄食料の増量・節電委員会設置によるデマンドシステムの導入を行いました。しかし、近年増加する自然災害や、必ず来ると言われている関東地域での地震の恐怖等を考えると、まだまだ危機管理が不十分であると2月の豪雪時に痛感致しました。その時を振り返ると、全てにおいて、多くの善意ある法人職員の全面的サポートでなんとか自衛できたというのが現実だったからです。

“信頼と愛とで築く地域医療”を法人理念に掲げる私たちは、危機時に地域に対して何らかの貢献ができなくてはなりません。法人管理者として自衛の危機管理ですら適切であったかを振り返り、今後予想される災害への危機管理体制を再構築します。無論、東日本大震災被災地への復興支援は永続です。



② 摂食嚥下機能評価

大生水野クリニック(院長:耳鼻咽喉科 大前由紀雄)は、県内でも有数な摂食嚥下機能評価を行える施設です。

適応には、多方向からの検討が必要とされる胃瘻造設。貴重な栄養摂取方法として、有効に活用されなければなりません。詳細かつ適切な評価のもとでは、経管栄養からの離脱検討も必要です。もっと多くの患者さんが、経口摂取の維持・再開の可能性を持っているのではないのでしょうか。適切な摂食嚥下機能評価を、ひとりでも多くの患者様に受けて頂くために、地域連携パス構築を目標に行っていきます。地域包括ケアへの貢献です。



③ 第6回目を迎える法人学術集会

早いものでもう6回目です。メインテーマは調和（Harmony）です。医療・看護・介護・それらを支える事務職にとって、学術的なスキルアップは必須です。現在11月開催を予定していますが、地域の方々も交え、有意義な学びの機会としていきたいと考えています。



④ 築き上げた診療体制の基盤整備

地域包括ケアが推進される中で、当法人における診療体制もここ数年で大きく変化しました。良質な慢性期医療を地域の方々へ提供する上で、診療の質向上は絶対条件です。尚寿会の事業展開の成長は早く、成長を担う人財の適切な育成がまだまだ追いついていません。

組織の成長と、それを担っていく人財の育成は、常に調和が保たれていなければなりません。この過渡期は、必ず越えなければいけないハードルだと考えています。そのために、法人職員のスキル向上に必要な教育・学習支援を強化します。

誰もが安心して利用できる医療機関であるために、優秀な医療従事者の大幅な雇用と、職員の教育・学習を行う予算として、5千万円の年間枠を計上しました。

⑤ 法人内主任コミュニティーの構築

各セクションで汗を流す主任は、現場のキーマンです。近い将来に法人を担っていく個々の主任同志の信頼関係の更なる構築、横の繋がりは職域を超えたチームワークを形成します。

あくまでも主任主導で、コミュニケーションを形成し、ワークショップを中心に業務連携室がファシリテーター（進行・促進役）として、全面的にサポートを行います。

法人初の試みにて、先ずは大生病院より始動し、法人全体へと輪を広げて行きます。



保健制度という制約の中で、医療・看護・介護が常に患者さんの為にある様に、試行錯誤を続けて行かなければなりません。常に前（将来）と後ろ（反省）を確認しながらの前進です。本年度は、法人の運営基盤の整備に重点を置きます。皆様のご理解ご協力を宜しくお願い致します。

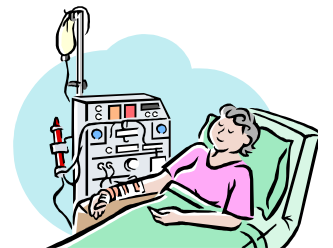
透析とは？～大生病院慢性維持透析開始～

大生病院A棟に透析室が完成し、今月より入院患者様の透析治療を開始します。今回、その“透析治療”について、臨床工学技士の山内さんに伺いました。

透析とは、腎臓の機能が十分に果たせなくなった時に行う血液洗浄療法です。本来、腎臓とは、尿の生成、老廃物の排出、免疫、内分泌、代謝といった機能を持っています。不可逆性の臓器で機能不全に陥ると治る事は殆どありません。そのために腎臓の機能を代行するのが、透析になります。しかし、全ての機能を代行できないので、多少の投薬治療が必要となります。

透析を開始したら、平均週3回4時間の治療を行い、現在日本国内で透析を受けている患者様は、30万人以上いらっしゃいます。この中には、30年以上透析療法を継続し、延命されている患者様も存在し、今後も透析療法のさらなる進歩により、延命率は上がると思われます。

大生病院では、初めての透析療法導入ですが、半年も前から専従の臨床工学技士を2名配置し、準備をしておりました。少しでも多くの患者様のお役にたてるよう、新規事業に取り組んで参ります。（熊☆）



常勤医師ご紹介 ～あさひ病院 3階東病棟～

あさひ病院で、昨年末まで水曜日午後の外来をご担当頂いていた齋藤真希先生が、1月1日より常勤医師として着任されました。3階東病棟を担当します。

昨年まで都内の精神科病院に勤務していました。沖縄県出身で、寒いのが苦手です。最近の大雪には大変驚かされました。趣味はバレーボール観戦とシュノ

ーケリング、お酒です。どうぞ宜しくお願い致します。

先月の大雪では、病院敷地内の雪かきも率先してお手伝い下さった、とても気さくな親近感漂う先生です。次号は、早くも広報紙“蜃気楼”を担当して頂きます。お楽しみに！（なる）



ご利用者の生活向上を目指して！研究研鑽を継続します！～老健 愛 第1回学術大会開催～

尚寿会では、「学術集会」と題して、日々の業務の質の向上や、患者様やご利用者の生活の質を高めるため、さらには地域の方々にも尚寿会の活動をご理解頂けるような研究等を2年毎に行っています。その他に、看護科が中心となった「看護研究発表」を毎年行い、患者様に研究成果を還元できるよう努力しております。

今回は老健 愛独自で、初めての試みとなる「学術大会」を開催することになりました。老健らしく、他職種協働での研究発表で、それぞれが初めての研究にも関わらず、充実した内容の発表も多く、大変有意義な時間となりました。

今後も老健内での個々の能力を高め、それらがご利用者の生活の質の向上に繋がるよう、日々研鑽していきたいと思っております。 (なみ)



おんたりの100歳！おめでとうございます！～大生病院通所リハビリテーションセンター～

大生病院通所リハビリテーションセンターをご利用の、須田はる様・田中もりゑ様は、今年で満100歳を迎えられます。とても100歳とは思えない、元気はつらつとして、瑞々しい感性をお持ちのおんたりのです！

筆まめの須田様に手先の器用な田中様、ともにお話もお上手で、いつも楽しく聞かせて頂いています。そんなおんたりののまわりには笑顔が絶えず、他のご利用者様からの人望も厚くいらっしゃいます。

おんたりと出会えたことに幸せを感じ、これからも多くの事を学ばせて頂きたいと思っております。100歳、おめでとうございます。 (ちか)



無事に終了しました！～大生病院 病院機能評価～

4度目の更新となる大生病院の病院機能評価。1月29日・30日に訪問審査が無事に終了しました。皆さんお疲れ様でした。去年の春から対策会議を重ねて準備を進めてきましたが、今回の訪問審査で終わりではなく、これからまた「より良い病院作り」がスタートします。サーベイヤー（調査官）の方々からの厳しいご指摘も頂きましたが、早速、職員皆で共通認識の下再検討し、できることから改善を進めていきます。(熊☆)

タイルモザイクでオリジナル作品を作りませんか？～地域交流推進委員会 手芸教室～

毎回大好評を頂いている地域交流推進委員会による「手芸教室」。暖くなる4月に開催します。今回は、『タイルモザイク』です。小さいタイルを使ってコースターなどのオリジナル作品を作ります。ご興味のある方は、振るってご参加下さい。(クロ)

開催日：平成26年4月19日(土)
時間：午前10時～約2時間
場所：あさひ病院作業療法室
問合せ：地域交流推進委員会
上條・北田(電話2957-1010)



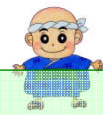
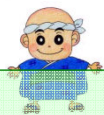
今年も五月の空にこいのぼりを泳がせたい！

毎年、桜の頃より五月にかけてのひと月ほど、尚寿の空をこいのぼりたちが元気よく泳いでいます。しかし、長年の風雨や経年劣化により、痛みのひどいものも少なくありません。このままでは、尚寿の空を彩る鯉が年々少なくなってしまいます。ご家庭で眠っているこいのぼりをぜひお譲り頂きたいと思っています。皆様のご協力を宜しくお願いします。(茶木)

連絡先 医療法人尚寿会 法人事務所 電話2957-1144



★永年勤続表彰 35年を始めとし129名の職員に感謝状が授与されました！おめでとうございます★



蜚 氣 楼 ～A Happy World Cup Year!!～

夜、NHK でサッカーを放送していた。ケンパスがゴール前で中央突破しゴール！スゲー。78年アルゼンチン大会決勝。その時高校生だった私は、以来ワールドカップ症候群になってしまった。

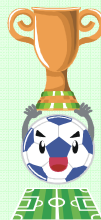
それまでも「三菱ダイヤモンドサッカー」は観ていた。セルジオ越後と岡野俊一郎の解説。その時から、ブンデスリーガが世界一と思い込んでいた。奥寺、尾崎、次々とドイツに渡った。日本はと言えば、ラモス、ジョージ与那城、戸塚、言わずと知れた読売クラブ全盛時代。日本は、韓国・イラン・サウジに完敗していた。私の目には、ブンデスリーガが、いっそう輝いて見えた。

いよいよワールドカップ。日本サッカーの最大の長所であるボランチに誰を据えるか。前回大会終了時から私なりに考えた。同じ選手が2・3大会連続で務まる程、世界は甘くない。そこで、最も体力のある選手をボランチに(長友のコンバート)。妙案か?とも思う。チーム内で走行距離が一番長いのはボランチを含むMF。ポジションのスペインをはじめ、これが世界基準である。

日本サッカーは混迷している。トルシエが世界に逆行し、ジーコが崩壊させた。オシムが変えてくれる筈だった。ザックは人が良すぎる。日本サッカーは「父」クラマーの原点へ戻り、ドイツサッカーを目指すべきなのではないかと考える。将来有望なコーチ監督をブンデスリーガへと、本気で願っている。

あと3か月でワールドカップ。日本を応援する!!当然!だが、期待はしない。日本サッカーが覚醒するのはまだ先だと思うからだ。今大会の期待は、06年ドイツ大会準決勝でフリックスを欠いたためイタリアに敗れ、10年南ア大会準決勝ではミュラーをかいて、スペインに敗れたドイツ。事実上の決勝戦で不運がつかまとうドイツにマラカナン悲劇は?今からワクワク!している。

宇野雅宣(あさひ病院4東病棟担当)



ノロウイルス 全国的に猛威を振るう ～もう一度基本にたちかえりましょう!～

今年に入ってから、浜松をきっかけに、長野、京都、広島、山梨、千葉、和歌山などでもノロウイルス感染による集団食中毒のニュースが、相次ぎました。

これまで、ノロウイルス対策として、2枚貝等の調理方法には充分気をつけましょうと、警鐘をならしてきましたが、今回、浜松の事例では学校給食の食パンが感染源になりました。

検品作業担当の従業員4名からノロウイルスの陽性

反応が出て、感染源が特定されましたが、従業員本人は感染の自覚が無いままパンに触れてしまったことで、パンが汚染されてしまい、集団食中毒に繋がった稀有な例になりました。

このことから学ぶべきは、感染の有無に関わらずいつでも正しい手洗いを励行することだと痛感しました。

感染から自分を守り、他人を守ることの大切さを、もう一度考えてみませんか。



(茶木)

親睦会のこの1年を振り返って ～第35期親睦会 珍しいことに挑戦しました!～

尚寿会35周年となる今年度、第35期親睦会として1年間活動しました。今年度の予定を立てる際、「今までやってない事、珍しい事をやろう!」と考えました。そして、近年では行われていなかった一泊旅行を計画し、昨年世界遺産に登録された富士山へ行きました。その他珍しい事と言えば、9月に予定していた「歌舞伎鑑賞」のチケットが1枚も取れなかった事、大雪でボーリング大会が中止になった事、そして今期の会長は平成生まれ…、と、目標通り?珍しい事が連続する1年でした。イベントの度、多くの方に助けて頂き、大きなトラブルもなく1年間を終わる事ができそうで、協力して頂いた皆さんへ感謝の気持ちでいっぱいです。

この4月で次の親睦会へ引き継ぎますが、新しい役員も過去に縛られることなく、新しいアイデアを出し合っていけば、親睦会から尚寿会全体を盛り上げる事ができると思います。今年は冬のオリンピックがありました。親睦会でオリンピック観戦なんて夢のような話ですが、6年後には東京でオリンピック!2020年の親睦会にはこんな企画を期待しています。

第35期親睦会会長 根本康平(あさひ病院栄養科)

☆雪解雫号☆ゆきげしずく号 春、樹木や家屋に積もっていた雪が解けて、春光をあびた水の滴りとなります。さながら、光の粒のように煌めいているその滴りは、春になる歓びに満ちた人々の心のきらめきを映しているようです。今年は関東地方でも記録的な大雪に見舞われ、光の春が待ち遠しいですね。(歩)

